

令和元年度 第1回郡上市住民自治基本条例検証委員会 要録

日 時：令和2年2月7日（金） 19：30～21：30

場 所：郡上市総合文化センター2階 特別会議室

出席者：今井良幸（アドバイザー：中京大学総合政策学部准教授）

上村英二、中山紀子、小椋和子、石神隼、佐藤正彰、山中佐代美、日置次郎

市長公室政策推進課：佐藤主幹、堀越主事

欠席者：高橋ゆき江、西脇将洋

1. 協議事項

(1) 郡上市における審議会などの情報公開の状況について

H30年度における郡上市審議会等における委員公募及び会議の公開に関する調査について調査結果を報告。

会議の委員を公募しない理由、会議を公開しない理由として、個人情報に関する内容を含むこと、また専門性が高いためといった理由があることを説明。

(2) 郡上市住民自治基本条例の検証について

上記情報公開の状況に関連して、会議などの情報公開、市民への周知について意見交換

委員①：地域協議会について、内容を市民が知っている必要がある。現状は明宝が「月間めいほう」大和が「まるっとやまと」の広報誌を通して活動を共有している。八幡は市HPで議事録を公開しているが、他地域は市民が内容を知る機会がない。それなので、知っていただく方向にもっていく必要がある。

行政改革推進審議会は令和元年度も6、7回開催されており、意見が活発に出される良い会議になっている。

子ども子育て会議のみ2人の傍聴の実績がある。コンサルが入り第2次計画を作成しており、会議はそのコンサルからの説明が主だった。

委員⑤：白鳥の地域協議会の福祉委員会で白鳥に関する冊子を作成した。（回して共有）

委員⑦：八幡でも「まちのコンパス」という冊子を作成しており、今回3冊目の発行を予定している。

事務局①：地域協議会については、高鷲で新道の駅構想について、美並では公共交通について、活発に議論がされており、各地域固有の課題について取組みをしている。このような活動について、市民のみなさんに知ってもらうことは大事だと考える。

また、今期で任期が終わるため現在委員を公募している。

委員①：委員を公募してもなかなか集まらないというのが現状。市民が地域のことにしてもっと参画する意識を高めることが必要。

委員⑤：住民自治基本条例が施行されて5年、様々な会議を公開にしているが、傍聴する人は少ない。

HPなどにアップした議事録をみれば内容がわかるが、議事録の作成、HPにアップの手間がかかるのは確か。

委員⑦：議会の傍聴も少ない状況で、他の審議会などの会議の傍聴を増やすのはさらに難しい。

委員⑤：議会広報も質疑内容が載っており、読めば内容がわかるものになっている。

委員④：高齢の人は小さい文字を読むことが難しい。

委員③：ケーブルテレビについて、以前より見る人が多くなったと思う。内容が行政っぽくない親しみやすいものになっている。特に高齢福祉課の番組は面白い。

委員①：今年度のまちづくりフェスティバルのCMについても、ケーブルテレビに協力いただき放送した。ひとつCMを作り、放送するのにも手続きに時間がかかる。(政策推進課、秘書広報課両方の決裁が必要など)一般市民は、これらの事情はわからない。

アドバイザー：公募、傍聴が少ない件について、具体的な解決手段としてはないが、知ってもらうことは必要。来ないから止めてしまうでは悪循環に陥ってしまう。

公募委員なし、会議公開なしの理由について、「専門性が高い」というのは理由として不足ではないかと思う。行政の会議は専門性が高いものであり、それが理由だとすべての会議が当てはまってしまう。

地域協議会については、一部でも動画で記録し公開するのはどうか。また、短い文章でSNSを活用して周知し、「やっている感」を出していく必要がある。

市の審議会などについても、例えば広報で内容を紹介したり、実施している様子をケーブルテレビで映像として流すことが考えられる。文字よりは見てもらいやすいのではないか。

委員⑤：今は新聞にもQRコードがあり、スキャンするとHPや動画にリンクするのが一般的になっている。

委員③：「誰でも参加できます」のような雰囲気を出していきたい。今回のような会議も実際はそうではないのに「固いこと」を議論していると思われがち。

委員⑦：ウォーキングの会を自分でやっているが、男性は集団に入りにくい傾向があるよう思う。女性の方がまわりを巻き込んで一緒に参加する人が多い。

委員⑥：例えば「漫才動画」のような面白い動画をUPしたら来てくれるのでは。

委員②：以前、動画を作ったことがあったが、固い内容だった。

委員⑥：今はスマホなどで簡単に動画編集もできるようになった。

委員①：市民協働センターでイベントカレンダー「ええがいど」を管理、運営しているが、特定の人に知らせたら良い会議の日程については、スケジュールに登録されていない。

委員②：「専門性」「大学の教授が参加」となると、実際にはそうでないのに難しいイメージとなり、一般の人が入りにくい。

アドバイザー：「専門性」については、大学教授など専門的な知識をもつ人に任せておいて、知らない人だからこそその意見が必要。これが委員を公募する大きな目的かと思う

委員⑥：傍聴の方はその会議で発言できないとなると、参加しよう！とはならないのでは。会議などを見に来る人は言いたいことがあるはず。

委員①：傍聴者が発言を禁止されていることはない。自分からは発言できないが、会議によっては議長が意見を求めたりはできる。

委員⑥：地域協議会についていえば、協議会のワークグループに入ってもらうことが一案。

このような課題があるので、来てくれる人を募集します！のようなこともできるのでは。

委員⑤：以前、テーマに関係する人に声掛けをして地域協議会の部会に参加してもらったことがあった。協議会委員は報酬が出るが、一方で委員でない参加した人には報償が出ないといった課題がある。

アドバイザー：パブリックコメントを募集しているが、掲載している「〇〇計画」などの内容が難しい。いかに分かりやすく伝えるか、ただし、平易にしすぎると本来の意味が伝わらないこともある。

委員①：市民のためにつくるのが「総合計画」など。それらを市民が知らない、理解できないのは課題点かと思う。

市民協働センターで「みらい会議」を開催した。「産業・雇用」のテーマで、「若い人」の参加を促したら、高校生も含む 60 歳未満だけの会議となった。

アドバイザー：以前「若者会議」という企画があった際、当初はオープンで分かりやすいテーマだったが、担当が代わると専門的なテーマを話しあうようになった。より深い議論となる専門的なテーマの会も人材育成の視点からは必要だが、バランスが重要になる。

委員①：みらい会議はこれからの若い人にターゲットを絞る方法をとった。行政では難しいことも市民協働センターで実施していく。

また、HUBGUJO で関係人口創出の事業の一つとして、北高、郡高の先生を呼んでパネルディスカッションなども実施した。

委員④：地域協議会について質問。一つが地域協議会における予算の活用状況について。もうひとつが地域ごとに会議の回数が違うなど、活動状況に差異があると思うが、地域同士の情報共有などの状況はどうか。

事務局①：予算については、H29 年から活動交付金として予算を計上している。

基礎 100 万円にプラスして付加分として地域別人口で按分した金額を計上。

美並では予算は 135 万円のところ、実績は 19 万円となっているが、

公共交通の課題について何度も会合を実施するなどしており、金額と活動状況は必ずしも一致しない。

また今月末市長にも出席いただく全地域の地域協議会正副会長が集う調整会議を実施する。そのような場で地域同士の情報共有をしていく。

委員③：地域協議会で使い切らなかった予算を繰り越しなど可能なのか。

美並は岐阜バス撤退など公共交通に大きな課題を抱えている。今年度余った予算を、公共交通の方に使用できたらと考えたが。。。

事務局①：予算の繰り越しはできるが、基本はソフト事業になる。（交付決定額の 5%以内）

委員④：和良も同様に交通に課題を抱えている。住民のアンケート実施、先進地視察までは実行するが、次のステップとなる専門家を活用しての提言までいかない。

美並も和良も同じような課題がある。他の地域も同様に様々な課題がある。各地域の困りご

とを共有して、改善案を水平展開できる流れが必要だと思う。

委員⑦：豊岡にデマンドの視察に行ったことがある。西和良では、ガソリン代のみ利用者に払ってもらい、退職者を中心に送迎バスを運営している例もある。

アドバイザー：地域の組織が交通を担う流れはあるが、お金、人の課題がある。交付金は増えることはない。交通の専門家を地域に繋ぐなどして、今後の策を考えていくフォローが必要になっている。

委員④：地域協議会の調整会議で、地域ごとの報告ではなく、何かテーマを決めてテーマごとに分かれてグループワークをしてみてもどうか。

委員⑥：地域協議会はいくつかの部会があり、部会ごとに違うテーマを扱っている。なかには適材適所がなされていないケースもありモチベーションの低下につながっている。

当該テーマについて適任の人がいるのに、その人の意見が反映されていないことも課題。

当初は自分達でテーマを決めて活動していたが、それらが解決すると既存のテーマを委員に割り振る形式になっている。

アドバイザー：地域の課題がたくさんあるなかで、地域協議会委員のミスマッチがあるなら優先順位付けが間違っているのではないかと。どのように取り組むテーマを決めていくのか、ガバナンス（統治性）の再構築が必要ではないかと。

委員⑥：例えば明宝地域では今後小川へのトンネル開通、学校の統廃合など子育て中の親にこそ考えてもらいたい課題が多い。子育て、仕事などそれぞれ事情があるので、スカイプなど便利な手段も活用して参加しやすい会議にしていくことも必要だと思う。

委員①：次年度4～6月にかけて「みらい会議」を実施するが、今回は提案までしていただく会議にする予定。地域ごとに開催した方が良くかと考えている。

アドバイザー：みらい会議の進行役は誰が行っているか？地域の会議に同じ地域の人が司会としてその会を仕切ると、気を遣って思うような意見を言えない場合もある。だから、対象地域とは別の地域の人が進行するのも良いと思う。

3、住民自治基本条例検証委員会の次期委員について

事務局①：皆様には引き続き委員をお願いしたいと考えている。別途個別に相談させていただく。

4. 閉会